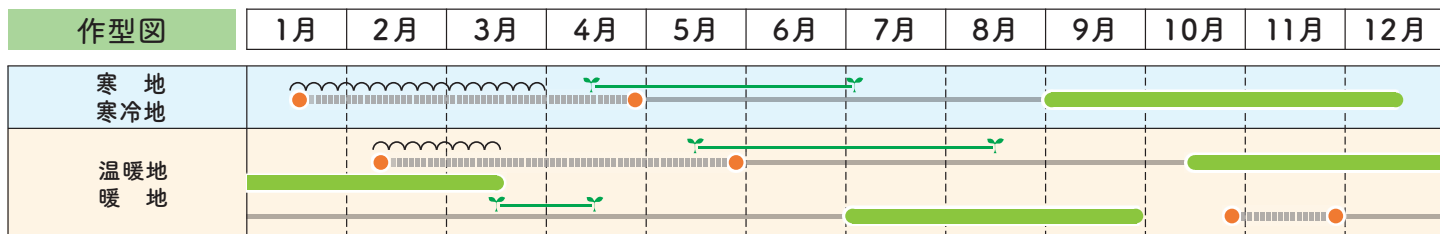


初めての栽培を応援

園芸入門

野菜編

早く太くなって暑さ寒さ病気に強い ネギ「夏扇4号」



●まきどき ●収穫期
↑植え付け時期 ○トンネル

※栽培方法・時期は目安です。適温でのタネまき、地域や条件に合わせた栽培をおすすめします。
※苗床の作型図になります。

おすすめアイテム

タネ



ネギ 夏扇4号 サカタ交配

※タネ袋のデザインは変更することがあります。

土壌改良材



バイテクバイオエース®

基礎情報

分類 | ネギ科
用途 | 地植え
日当たり | 日なた
耐暑性 | 強

タネをまく前に 毎回確認! タネまき基本3チェック

☑ 気温をチェック

気温が高過ぎても低過ぎてもうまく発芽できません。天気予報などで気温を確認してからタネをまきましょう。特に春は日中暖かくても夜は冷えるので注意してください。

☑ 土の厚さをチェック

発芽するときに光を好むもの、嫌うもの、どちらでもいいものがあります。必ずチェックしてからまきましょう。

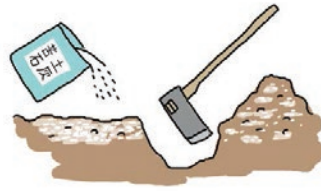
☑ 土が乾燥していないかチェック

タネまき後、発芽まではこまめに水やりしてください。発芽するまで乾燥は厳禁。ジョウロでの水やりでタネが流されそうな場合は霧吹きを使ってください。

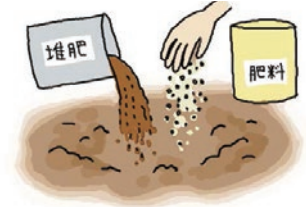
手順1 タネまき用の畑の土づくり

タネまきの2週間以上前に苦土石灰を施してクワでよく耕し、1週間前に堆肥、肥料を施し、軽く耕しながら畝をつくります。

- 2週間以上前
1. 苦土石灰をまく 2. 深く耕す



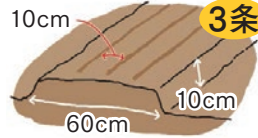
- 1週間前
1. 堆肥をまく 2. 肥料をまく 3. 耕す



手順2 タネまき

深さ1cm、間隔10cmで作った溝にタネを5mm間隔ですじまきします。タネに手で土をかけて軽く押さえてから水やりします。発芽するまでは乾燥を防ぐためわらや寒冷紗などで覆います。1週間ほどで発芽してきます。3~4月の低温期のタネまきではマルチを敷き、さらにビニールトンネルをするとよいでしょう。

●まき溝



1. タネを5mm間隔でまく
2. 覆土する
3. 手で軽く押さえる
4. 水やりする

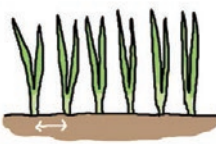


手順3 間引き・追肥

間引きは、草丈が6~7cmのころ1.5cm間隔で1本に、草丈10cmのころに3cm間隔で1本になるようにします。追肥は、タネまき後1カ月ごとに肥料をばらまき、クワや移植ゴテなどで軽く耕します。

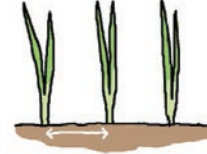
●間引き

草丈6~7cmくらいのとき



1.5cmに間引き

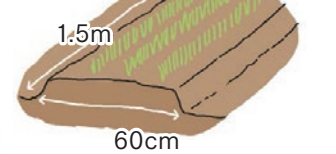
草丈10cmくらいのとき



3cmに間引き

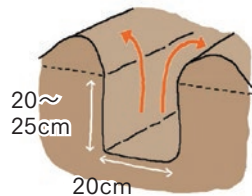
●追肥

タネまき後1カ月ごとに追肥する



手順4 定植用の畑の土づくり

定植畑は耕さずに定植1週間前に苦土石灰だけを施しておき、定植当日に深さ20~25cm、底幅20cm程度の溝を掘ります。



畝立て

- ネまきまでに畝をつくる



●定植1週間前

定植畑に苦土石灰をばらまく

●定植当日

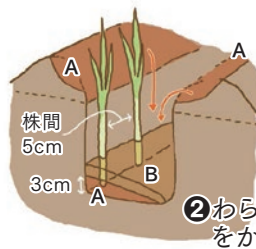
掘った土を両側に積み上げる

手順5 定植・土寄せ

育てた苗を土から引き抜き、株間5cm間隔に植え溝の側面に苗を立てかけ、3cmほど覆土し、この上にわらや堆肥をかけて乾燥を防ぎます。この後、土寄せと追肥は3~4回程度行います。最後は葉が集まっている首元まで土寄せのみ行います。定植後40~50日に厚さ6~7cmほど土寄せし、2回目、3回目は3週間ごとに、最後は収穫30~40日前に葉が集まっているところまで土寄せを行います。※7~8月の高温期は土寄せと追肥は控えましょう。

●定植

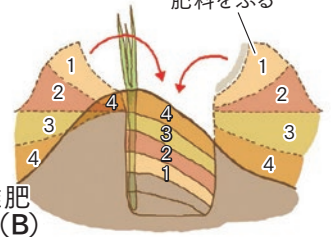
- ① Aの土をかける



② わらや堆肥をかける(B)

●定植後の土寄せと追肥

追肥はこの面に肥料をふる



※Aのときに踏んで根元を安定させる

※踏んだ後、Bの前に苦土石灰を薄くかけるとよい

- ③ 定植後40~50日 1の土を1へ土寄せ+追肥
④ その3週間後 2の土を2へ土寄せ+追肥
⑤ その3週間後 3の土を3へ土寄せ+追肥
⑥ 収穫30~40日前 4の土を4へ土寄せ(追肥なし)

手順6 収穫

最後の土寄せから30~40日が過ぎたころに収穫を始めます。畝の端から土を崩して必要な分だけ掘りとりします。とり遅れると、葉の枯れや首割れなどにつながるので注意します。



土を掘り上げた方に傾けて抜き取る